

各部会報告および平成27年度の部会編成(案)



個別の課題解決

地域課題の共有・解決

地域自立支援協議会

- ・年1・2回開催
- ・地域課題の共有・提言
- ・専門部会設置に関する検討
- ・地域課題解決のための協力体制の構築

担当者会議

- ・月1回開催
- ・相談支援状況の確認
- ・困難事例の対応
- ・関係機関との連絡調整

メンバー

- ・フィット
- ・社会福祉課
- ・指定特定相談支援事業所

提案

運営調整会議

- ・月1回開催
- ・専門部会・自立支援協議会の議題・内容の検討

メンバー

- ・相談支援アドバイザー
- ・フィット
- ・社会福祉課
- ・指定特定相談支援事業所

報告

報告

専門部会

- ◆ 療育支援部会
- ◆ 相談支援部会
- ◆ そだつ部会(新設)
- ◆ 居住の場確保PT
(新設)

○協議会が指定する事項の調査・研究

○地域課題の具体的解決方針の検討

個別支援会議

- ・随時開催
- ・個別事例にあわせ参加者を招集。
- ・関係者間の支援目標の共有・役割分担
- ・個別事例から地域課題の把握。

報告

運営の相談

相談支援部会 報告

平成 26 年度の相談支援部会では、奇数月に計画相談の進捗状況やそれに伴う事務手続きについて確認し、偶数月に就労相談についての検討を行った。また 27 年度の相談支援体制の拡充について協議した。

部会での検討を受け、計画作成の質を確保するため相談支援担当者会議の在り方を検討し、事例検討を実施し計画作成の技術的な向上を図る取り組みを始めている。また就労相談については、就労支援の各部署の役割を確認し連携を深めるため、「尾張東部障がい者就業・生活支援センターアクト」「就労移行支援事業所あびと」「名古屋南公共職業安定所」(予定)の職員から活動報告を受け、情報交換を行っている。

第 1 回 日時：平成 26 年 6 月 9 日(金)15 時から

議題

1. 今年度の専門部会について
2. 計画相談の進捗状況について
3. 前年度からの課題の確認
 - ・就労相談については専門性が必要となるため、情報共有していく。
 - ・プランの検討を通じて計画の質を担保できるような仕組みを検討していく。(7 月)
4. 今年度の部会予定確認
 - ・奇数月に通常相談支援部会を開催し、計画導入の進行状況を確認していく。
 - ・偶数月の相談支援部会で就労相談について検討していく。

第 2 回 日時：平成 26 年 7 月 28 日(金)15 時から

議題

1. 支給決定期間の変更について
支給決定期間、計画作成について
更新時の提出書類・請求について
2. サービス利用計画の質向上について
担当者会議の持ち方について
 - ・サービス等利用計画の質向上を目的として、新規計画について担当者会議で検討していく。
 - ・困難ケースについて記入表を活用して共有していく。
3. 就労相談について
8 月部会では、地域の就労支援事業所の実情を知るために尾張東部障がい者就業・生活支援センターアクトを招いて活動内容の説明を受ける。

第 3 回 就労相談について 日時：平成 26 年 8 月 20 日(水)14 時から

内容：「尾張東部障がい者就業・生活支援センターアクトの活動報告」

講師 社会福祉法人ひまわり福祉会 尾張東部障がい者就業・生活支援センターアクト
就労支援コーディネーター 松尾俊明氏 ※部会員以外の就労系事業所も
参加

第4回 日時：平成26年9月22日(月)15時から

議題

1. 支給更新時の案内・書類提出等について
サービス等利用計画の提出書類、流れを一覧にし、標準化を目指す。
2. 各事業所の計画作成進捗状況について
現時点でサービス等利用計画は6割作成済み。今後も進捗状況を確認していく。
3. 今後について
精神保健福祉法改正についての学習会を開催し、必要な連携が図れるようにしていく。

第5回 日時：平成26年11月17日(月)15時から

議題

1. 各事業所の計画作成進捗状況について
各事業所が作成する計画307件中184件が作成済み。(約6割)
2. 計画作成の効率化について
9月26日付けで厚労省から出された「計画相談支援・障害時相談支援の推進等について」の内容を確認。
3. 次年度の相談体制について

第6回 就労相談について 日時：平成26年12月15日(月)15時から

内容：「地域障害者就労支援」

講師 社会福祉法人豊明福祉課 就労移行支援事業所あびつと

サービス管理責任者 田中賢二氏

※部会員以外の就労系事業所も参加

第7回 日時：平成27年1月19日(月)15時から

1. 各事業所の計画作成進捗状況について
2. 自立支援協議会本会議に向けて
3. 次年度の課題について

第8回 就労相談について 日時：平成27年2月27日(月)15時から(予定)

内容：「ハローワークの障がい者就労支援について(仮)」

※部会員以外の就労系事業所も参加

第9回 日時：平成27年3月16日(月)15時から(予定)

議題

今年度の総括、次年度に取り組む課題

まとめ

計画の進捗状況を確認しながら進めていったことで、12月末現在で計画作成の達成率は75.1% (障害者総合支援法サービス利用分) となり、年度末には約8割を見込む状況となった。今後の課題としては、相談支援を対象とした研修会の実施、地域移行のための取組、65才となる方の介護保険制度への移行についてなどが上がった。また相談支援の拡充によりサービス利用者が増加しているが、人材不足で事業の拡充が難しいという意見が多くみられた。

そだつ部会 報告

平成 26 年度より、福祉の人材確保、人材育成を目的として、豊明市地域自立支援協議会にそだつ部会が新設された。本年度のそだつ部会では、(1)福祉の仕事を広く一般市民に知ってもらうために、「福祉のお仕事見学会」を実施するグループと、(2)現在、障害者支援に携わる人の人材育成を目的とした「勉強会・研修会」を実施するグループの二手に分かれ、それぞれに市内福祉事業所職員が参加して実行委員会を組織した。

下記の部会開催状況の通り、まず、6月に部会を開催し、事務局からそだつ部会設立の経緯を説明した。そして、2つの実行委員会に分かれて、福祉の人材育成、確保に取り組んでいく計画を伝えた。

「福祉のお仕事見学会」実行委員会では、まず、先進的に事業所見学会を実施して実績を上げている一宮市障害者基幹相談支援センターに訪問し、会の運営方法やどのように取り組みを進めていくと効果的なのかを学んだ。その後、4回の実行委員会を開催し、12月に事業所見学会を実施した(見学会の詳細については別紙参照)。

「勉強会・研修会」実行委員会では、人材育成を主目的として、部会員同士で実施したい研修テーマについて話し合い、①障がい者の支援の基本について②精神障がい者の支援とは？③発達障がい者の支援とは？④障害者虐待防止法について、以上、4回に分けて「勉強会・研修会」を開催した(③、④については開催予定)。

【開催状況】

◎「福祉のお仕事見学会」実行委員会

部会の説明会

日時：平成 26 年 6 月 13 日（金）16:30～18:00 会場：総合福祉会館 3階大会議室

(議題)

1. 部会設立趣旨の説明
2. 人材育成、人材確保の目的
3. 実行委員会のメンバー募集

事前訪問

日時：平成 26 年 7 月 15 日（火）13:00～14:00 訪問先：一宮市障害者基幹相談支援センター

(議題)

1. 福祉の仕事見学会の効果
2. 準備の進め方
3. 一宮市の資料を確認
4. 支援者同士の共通認識を築くために

第1回

日時：平成26年7月18日（金）15:00～17:00

会場：総合福祉会館 3階 会議室

(議題)

1. 実行委員の役割について
2. 見学会の内容検討
3. 情報交換

第2回

日時：平成26年8月29日（金）15:00～16:30

会場：豊明市役所 3階 政策審議室

(議題)

1. 見学コースの確認
2. タイムスケジュールの検討
3. 当日の役割分担

第3回

日時：平成26年11月28日（金）15:00～16:30

会場：総合福祉会館 3階 会議室

(議題)

1. 各実行委員の進捗状況確認
2. 申し込み状況の報告
3. アンケートの内容検討
4. 当日の動きについて

福祉のお仕事見学会

日時：平成26年12月5日（金）12:45～16:00

見学先：(社福)福田会「ゆたか苑」、(社福)豊明福祉会「メイツ」、「フレンズ」、「ふぁーもにー」

(実施内容)

別紙「実施報告」参照

第4回

日時：平成26年12月5日（金）16:30～17:00

会場：総合福祉会館 3階 会議室

(議題)

1. 見学会のアンケート確認
2. 反省点の確認

・次年度に向けて

参加者のアンケート結果から高評価の意見が多かったため、次年度も見学先の事業所を変え見学会を実施する方向で検討中。

◎「勉強会・研修会」実行委員会

部会の説明会

日時：平成26年6月13日（金）16:30～17:30 会場：総合福祉会館 3階大会議室
(議題)

1. 部会設立趣旨の説明
2. 人材育成、人材確保の目的
3. 実行委員会のメンバー募集
4. 勉強会・研修会のテーマに関する意見交換

第1回 研修会

日時：平成26年10月31日（金） 13:30～16:45 会場：総合福祉会館3階 大会議室

<研修テーマ>

「障がいのある方への支援の基本」

<講師>

社会福祉法人 日進市社会福祉協議会

児童発達支援センター すくすく園 園長：熊谷 豊氏

<担当スタッフ>

- ・NPO法人 地域とともに生きるめだかの会
就労継続支援B型事業所 むぎの花 北沢 増夫氏
- ・株式会社 ニチイ学館
ニチイケアセンター豊明 村山 里美氏
- ・社会福祉法人 豊明市社会福祉協議会
豊明市社会福祉協議会ホームヘルプサービス 野村 浩子氏

<参加者数>

43名

第2回 研修会

日時：平成26年12月9日（火） 13:30～15:30

会場：藤田こころケアセンター5階 ヘルパー講義室

<研修テーマ>

○講演会

「精神障がいのある方への支援とは？」

○シンポジウム

「～地域でつくる支援の“わ”～」

<講演会講師>

医療法人 静心会 藤田メンタルケアサテライト

院長 古川 修氏

<シンポジスト>

- ・医療法人 静心会 藤田メンタルケアサテライト
院長 古川 修氏
- ・医療法人 静心会 藤田こころケアセンター
医療ソーシャルワーカー 森井 曜子氏
- ・医療法人 静心会 就労継続支援 B 型事業所ハーミット
サービス管理責任者 落合 舞子氏

<担当スタッフ>

- ・医療法人 静心会 グループホームらくらく
サービス管理責任者 山本 かおり氏
- ・医療法人 静心会 グループホームなごむ・つどう
担当職員 松本 幸野氏
- ・医療法人 静心会 就労継続支援 B 型事業所ハーミット
サービス管理責任者 落合 舞子氏

<参加者数>

32名

第3回 研修会

日時：平成 27 年 2 月 24 日（火） 13：30~15：30 会場：総合福祉会館 3 階 大会議室

<研修テーマ>

「発達障がいのある方への支援とは？」

<講師>

株式会社ビューポイントコミュニケーションズ
就労移行支援事業所 誰でも就労支援センター@千種
職業カウンセラー 藤田 亜沙子氏

第4回 研修会

日時：平成 27 年 3 月 24 日（火） 13：30~15：30 会場：総合福祉会館 3 階 大会議室

<研修テーマ>

「障害者虐待防止法について」

<講師>

社会福祉法人 豊明福社会
多機能型事業所 メイツ 所長 大谷 真弘氏

3. 次年度に向けて

人材育成、職員の資質向上は、継続して行うべき課題であるため、次年度も本年と同様、実行委員会形式で「勉強会・研修会」を行っていく予定。

平成26年度 第1回「福祉のお仕事見学会」の実施報告

【概要】

趣 旨	豊明市自立支援協議会で地域課題として挙げた人材不足や人材育成の解決のため、福祉の事業所を見学していただき、現場の職員が明るく頑張っている姿を見て、福祉の仕事を知ってもらい、その魅力を伝えられるよう見学会を実施する。
実施日	平成26年12月5日（金）
見学施設	ゆたか苑、豊明福祉会（メイツ、フレンズ、ふぁーもにー）
活動形式	市内福祉事業所に参加希望を募り、実行委員会形式を取った
対象者	市内在住か在勤の方

【実績】

参加者	20名（一般 11名、スタッフ 9名）
部会開催	部会1回、実行委員会4回開催 （6月・7月・8月・11月・12月）



【アンケート集計結果】

回収数 20枚（一般 11、スタッフ 9）

一般

年 齢 10代(1名)、30代(3名)、40代(2名)、60代(2名)、70代(1名)

Q. 開催をどこで知ったか？

A. 広報とよあけ(6名)、チラシ(1名)、その他(2名)

Q. 参加してどうだったか？

A. とても良かった(5名)、良かった(4名)、あまり良くなかった(0名)、良くなかった(0名)

Q. 福祉の仕事の印象は変わったか？

A. とても良くなった(2名)、良くなった(5名)、あまり変わらない(2名)、悪くなった(0名)

Q. 福祉の仕事に就きたいか？

A. はい(1名)、いずれは(1名)、ボランティア(2名)、いいえ(3名)、無記入(2名)

Q. 参加しやすい曜日や時間は？

A. 平日午前(5名)、平日午後(3名)、土日午前(0名)、土日午後(0名)、無記入(4名)

(自由記述)

- ・ふぁーもにーで、児童の様子が見られる時間に見学できたら良かった。
- ・事業所で信念を持っていきいきと働いている姿を見て感動した。
- ・福祉の内容が詳しく分かって良かった。また、参加したい。
- ・「福祉のお仕事」ではなく、施設見学と思って参加したので仕事はできないが、参加して良かった。

スタッフ

Q. スタッフ参加の感想。

A. とても良かった(5名)、良かった(4名)、あまり良くなかった(0名)、良くなかった(0名)

Q. 自分が働いている職場を見てもらいたいのか？

A. はい(4名)、いいえ(3名)

(自由記述)

- ・ 集合時間がお昼ご飯時だったので、午前か午後かハッキリしていると良かった。
- ・ もう少し、座って休める時間があると良かった。
- ・ 名札が見えづらくて、スタッフと一般見学者の区別がつきにくかった。
- ・ 豊明だけでなく、周辺の事業所見学もかんがえたらどうか。
- ・ 事業所で写真撮影する時の、事前許可を取る。

【まとめと課題】

当初想定した程度の参加者が来て、内容にも満足した方が多く、本開催の結果自体は、成功だったと言える。ただ、部会の実施目的は、一般市民に「障がい者福祉」に対して良い印象を持ってもらいたいだけに留まらず、一緒に障がい者の生活を支える仲間になってもらいたい思いがあるため、その効果は、1回の開催だけで、到底得られるものではない。

そのため、次年度以降も、継続して実施される事が必要である。



療育支援部会 報告

年間テーマ「サポートブックを作成する」

開催日	テーマ	内容と方針
平成 26 年 5 月 15 日 第 1 回 会議 AM 会議 PM 市内施設見学	1. サポートブックについて グループワークによるサポートブックのイメージ共有 2. 市内事業所の見学 メイツ・フレンズ・ふぁーもに一見学	キーワード 豊明らしさ：乳児から生涯使える・誰でも使える・加除式・書きやすい・見やすいなど 市内事業所との連携もテーマに施設見学を実施
平成 26 年 6 月 17 日 第 2 回 会議	1. サポートブックについて グループワーク前回の振り返りから	サポートブックの目的・誰がいつどのように使うのかを明確にすべき 情報が途絶えないような「つなぐ」役割 子ども本人が HAPPY になるためのもの 以下キーワードとポイントをワーキングチームに引き継ぐ。 (*ワーキングチーム会議へ)
平成 27 年 1 月 13 日 第 3 回 会議 ワーキングチームからの中間報告を受けて	1. 相談支援事業委託実績報告 (安達相談員) 2. サポートブックワーキングからの現状報告 グループワークによる見本 3 号への提案	配布対象：卒園間近な年長児の保護者 目的：幼児期からの様子を小学 1 年生につなげる。 利用方法：個人懇談での利用から保護者との情報交換に使用する。 全ての子どもの情報が幼児期から就学に向けてつながるように検討している。 作業中の見本改訂 3 号が、学校での利用が可能かどうかを関係機関の意見を聞きながら実用可能なものに調整中。

療育支援部会から今後のワーキングチームへの提言

- *健康な子どももまず利用できること、保護者が記載することを念頭に内容の精査をする。
- *利用する学校が参考になるような内容は、子どもの行動面を主に整理してはどうか。
- *評価の仕方が、保護者のしやすいものにし、後半ページの得意不得意の記入に参考になるとよいのでは。
- *見本は必要度の高いと思われる年長時期を捉えた内容で構成している。乳幼児部分は別に検討する必要がある。
- *生育歴が学校や保育園・幼稚園で共通になり、この冊子のコピーですむようになれば、保護者にとってもメリットがあるので考慮して検討してはどうか。

サポートブック・ワーキング会議について

サポートブックワーキング会議メンバー

所 属	氏 名
豊明中学校 主幹	弓 巾 信 明
児童ディサービス ふぁーもにー	守 谷 千 春
健康推進課保健センター 課長補佐	二 宮 眞 由 美
社会福祉課 障がい福祉担当係長	川 原 静 恵
どんぐり学園 園長	長 瀬 典 子
児童福祉課 主事	片 山 裕 子
児童福祉課指導保育士 兼 館保育園長	佐 田 秀 子
児童福祉課 課長補佐	岡 田 恵 子
(事務局) 保育所等訪問支援専門員	加 古 典 子

平成26年度 サポートブックワーキング会議 記録

テーマ：サポートブック作成

開 催 日	テーマ	主な内容と出された意見
平成26年 7月29日 事前会議	参加者6名 療育支援部会からの振り返り リーダーについて打ち合わせ	新メンバーを迎えるにあたって、療育部会からの流れの確認
8月7日	リーダー会議	前回の会議を受けてリーダー選出について
8月26日 第1回	メンバー紹介 ワーキング部会までの流れ ワーキング会議内規の承諾 サポートブック情報交換	アイスブレイクなど2班に分かれて話し合い、キーワードを入れたサポートブックについての班毎の共通理解を図る サポートブック共通理解に向け意識の共有を図る
9月17日 第2回	共通理解のためのワーク 自立支援協議会に挙げるための スケジュール表の提示	ワーキングチームの活動目標の確認 27年3月完成を目標にする 「豊明らしさ」とは？各自情報や見本の収集 ワーキングの GOAL *子育て支援のツールとなるサポートブックが完成 *サポートブックが活用されて子ども家族の幸せ、育ちが拡大される。
10月22日 第3回	先進他市町の見本の検討 どのようなものがよいか、サンプルを見ながらワーキング	「豊明らしさ」の確認—全員に配布できる？誰が書くの・誰が利用するの？ファイル形式の加除式のもの？ 学童期はチェック式で書きやすいもの？ モニタリング式で5歳児に配布する？

		など対象群を含めた配布内容・ブックの中身など自由な意見交換をする。
11月20日 第4回	見本を絞って、形状などの話し合い O市のサンプルについての聞き取りを報告	とりあえず、幼稚園保育園児の3歳児全員に配布するものではどうか。 見本があったほうが検討しやすいので他市のサンプルを参考に見本を作ってさらに検討していく。
12月12日 第5回	豊明市の「見本1号」(たたき台として作成)を検証する。	⇒全員に配布するもの(健常な子どもにも渡すものとは?) 気になる子の保護者に気づきを促すためには? チェック表方式? これをどのように利用するのか? 26年度中に形にする・モデル校での実施 教育委員会・校長会との連携が課題⇒「見本2号」へ
12月24日 第6回	メンバーからの提案で、もう一度振り返りをという展開になる。 「見本2号」の見直し キーワードから原点へ立ち戻り、ワーキングの再開。	小学校へのつながりが課題。3歳児スタートでよいのか?モデル校モデル園での試行を検討する。 (利用の目的、使い方、周知の方法など再度話し合い、1校モデルを決め、その校区の保育園をモデルとして実施してデータを見る。) 乳児期と学童期では必要なものがちがうのではないか?
平成27年 1月8日 第7回	前回からの振り返り モデル校・モデル園について 決定稿ではないが第3回の療育支援部会に提案意見を収集。	乳児期と学童期の必要な情報がちがう。 試行モデルのスタートは丁寧にしてもよいのでは。 地区を絞り込んで実施 5歳児から小学校へ渡すことが課題。 障害の子には個別支援部分を追加して利用できるか。 目的は保護者の気づきにつながるもの 「見本2号」の見直しから「見本3号」(会議へ) 年長から就学するときに利用度が上がるように次回精査していく。⇒療育支援部会に提案 学童期への情報提供をどの手法で行くかは手探り状態。

サポートブック・ワーキング会議の課題と今後の主な作業

平成28年4月の活用をめどに今後作業を進めていく予定。

現状の課題

1. 療育支援部会からの提言を受けての検討 ⇒ 見本の内容の精査
2. 「情報をつなぐ」ところの重要性を【形】にしていくために ⇒ 情報の連携のために必要な内容や方法は?
3. 利用可能なものにするための方策の検討 ⇒ 保育園・小学校・中学校など枠を超えた共通理解のための方策は?

運営調整会議 報告

1 会議目的・内容

- ◎自立支援協議会の運営についての協議
- ◎市の相談支援体制についての協議

2 構成メンバー

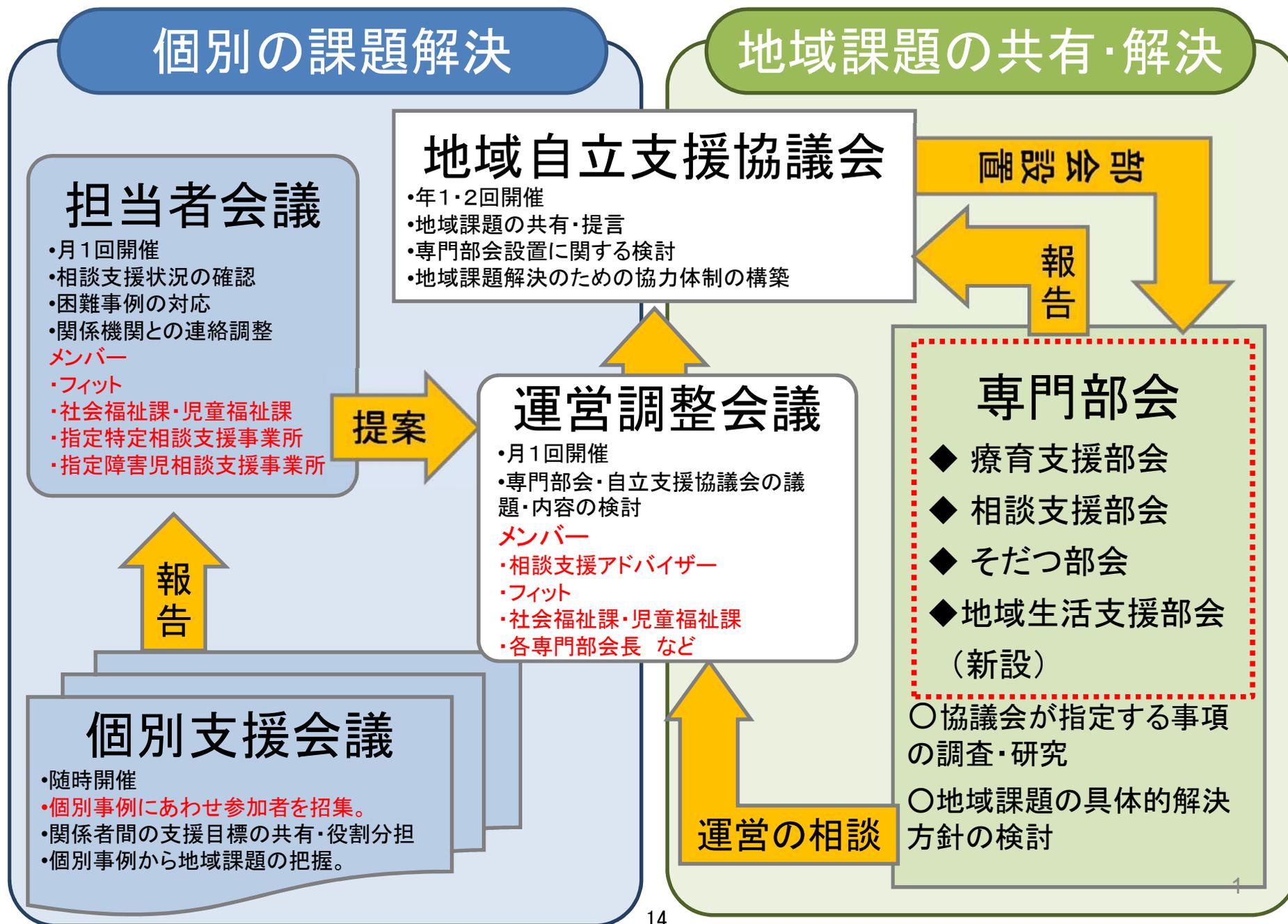
- ・市内相談支援事業所代表（豊明福祉会、静心会）
- ・豊明市障がい者基幹相談支援センターフィット
- ・社会福祉課

3 開催日時・内容及び議題

平成 26 年 4 月 24 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 自立支援協議会の 26 年度体制と運営調整会議の内容について 2 専門部会の予定について 3 地域人づくり事業について
6 月 24 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 各専門部会の予定について 2 担当者会議・個別支援会議について 3 虐待対応について
7 月 17 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 専門部会の進捗状況について 2 虐待マニュアル・事業所への周知法について 3 就労相談について 4 計画相談の進捗状況と今後の体制について
8 月 28 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 専門部会の進捗状況について (そだつ部会、相談支援部会、居住の場確保 PT) 2 今年度の基幹相談支援センターの運営について
12 月 17 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害児相談支援事業所について 2 各専門部会の報告 3 地域課題報告及び次年度の自立支援協議会について
平成 27 年 1 月 27 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 27 年度の自立支援協議会の運営について 2 26 年度自立支援協議会（本会議）について

27年度 豊明市障害者地域自立支援協議会(案)

資料 2-6



「地域生活支援部会」について（案）

●部会設立の趣旨

障がい者の高齢化・重度化や「親亡き後」を見据え、以下の機能が今後一層求められていきます。

- ・相談（地域移行、親元からの自立）
- ・体験の機会・場（一人暮らし、グループホーム等）
- ・緊急時の受入・対応（ショートステイの利便性・対応力向上等）
- ・専門性（人材の確保・養成、連携）
- ・地域の体制づくり（サービス拠点、コーディネーターの配置等）

地域生活への移行者数等の成果目標および各障害福祉サービスの必要な量の見込みと確保策について定め、平成27年～29年度を計画年度とする「第4期障害福祉計画」を策定しています。厚生労働省の示した「改正基本指針」では、上記の機能をグループホーム等の居住の場に付加した拠点（地域生活支援拠点等）を平成29年度末までに各市町村または各圏域に少なくとも一つを整備することを基本としており、拠点を整備する方法（拠点型）と、個々の機関が分担し有機的な連携の下に機能を担う方法（面的整備型）のいずれかの方法で整備することとなっています。

豊明市においても、この地域生活支援拠点の整備方法について関係者の意見を取り入れ、実情に合った地域生活支援拠点を整備するため、27年度から地域自立支援協議会の専門部会として「**地域生活支援部会**」を立ち上げ、地域生活支援のあり方および整備、連携策などについて協議していきたいと考えております。

